

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら富士宮教室			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日		～	2025年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数)	47人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 20日		～	2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数)	23人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の連携ができています。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月行われる教室ミーティングや支援者会議、申し送りノート、議事録等を活用し、情報共有をしている。 全体会議や教室ミーティングだけでなく、その日にいた職員で振り返りができている。 専門職員を始め職員がそれぞれの強みを活かし、協力してチームで支援を行っている。 職員が意識的に声を掛けあっている。 未経験の職員が業務に携わる際に周りのフォローが厚く、また意見を言いやすい。 子どもを尊重しているのと同じような感覚で、職員同士も皆相手のことを考えて接している。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを生かしていく。教室に入る職員への共有を必ず行っていく。 困ったままにしないで相談していく。 ささいな事であっても気になった事は情報共有する時間を設けていく。 情報を共有するだけでなく支援につなげていく。 施設内外での研修を実施していく。 専門職員と連携し、よりよい支援につなげていく。 今後も経験、未経験に関わらず様々な意見を反映できるような組織作りをしていく。
2	プログラムの工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日違うプログラムになるよう工夫している。 集団プログラムを領域毎に色分けし、毎日の活動や季節を感じられるようにしている。 畑で野菜を育て、収穫することや、買い物体験、各教室との交流、クッキング、外出なども行っている。 ナースプログラムや歯みがきなど、専門職員による活動も実施している。 同じようなテーマのプログラムでも子どもたちが飽きないよう工夫している。 同じプログラムでも各教室毎に子どもができることを引き出すように目標や内容を工夫している。 毎回プログラムの振り返りを行い、次のプログラム作成に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までやったことがないプログラムや自宅ではできないことを思いっきりできる活動を取り入れていく。 子どもたちに必要な公共性やマナーを知るための外出プログラムを増やしていく。 継続性のあるプログラム作りをしていく。アイデアを出し合い、繰り返し行っているものも飽きない工夫をしていく。 全体としてのねらい、個人のねらいを明確にして展開していく。 プログラムのテーマを限定化し過ぎてしまうと活動内容が子どもに合ったものにしづらいため、ある程度幅をもたせて設定していく。 集団プログラムを多様化し、各教室や個に合わせて細分化していく。 自由遊びの中でプログラムのような活動を入れていく。 当日の子どもの様子で想定外のことも起きるので、当日の多少の変更は認めていく。
3	保護者との情報共有ができています。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時の短い時間の中でも保護者に子どもの様子をしっかりと伝え、保護者の言葉に耳を傾けている。 担当の教室でなくても職員間で情報を共有し、具体的にその日の様子を伝えている。 インスタグラムが定期的に更新されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が変わっても伝え方が同じになるようにしていく。 職員の対応の差がないように職員間で情報を共有していく。 子どもの様子だけでなく、行ったプログラムのねらいなども伝えていく。 インスタグラムに活動内容だけでなく、野菜の成長や感染対策、自由遊びの様子等もあげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有・改善を徹底したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務日がそれぞれ異なるため全職員が同じタイミングで情報を共有することが難しい。 ・新入社員、非常勤職員の情報共有が難しい。 ・情報の共有はできているが改善にまで至っていない。 ・改善案を出してから決定するまでに時間がかかる。 ・研修報告の際、内容の報告になってしまっていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の方法を見直し、職員一人一人が意識して情報把握に努めていく。児発連絡ノートやHUGの業務日誌で確認していく。 ・新入社員の教育係を一本化していく。 ・職員から教室リーダーへの相談はできているので、そこから先をスムーズに共有するようにしていく。 ・教育リーダーや職員の意見を業務運営に反映させていく。 ・決定までに介する人や時間の検討をしていく。 ・ヒヤリハット、インシデントの改善策を迅速かつ全体で考えていく。 ・各種マニュアルは入社時の説明や終礼等で確認する時間を設けていく。 ・防災係のような担当者を決めていく。 ・研修報告は実践できる内容として共有していく。
2	施設改善を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・換気がしにくい。トイレの臭いが気になることがある。 ・棚を固定したい。 ・療育に使う物を定期的に整理しているが収納スペースが狭い。 ・放デイの教室にはクールダウンの部屋はあるが、他児が入って来ることがあり、個別の対応とはなっていない。 ・屋外の階段や玄関がバリアフリーではなく、スロープもない。 ・室内から中庭へ出るまでに時間がかかってしまい、遊ぶ時間よりも移動に時間がかかる。 ・駐車場から玄関までの距離があり雨天時は大変である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子も利用しやすいように工夫していく。 ・クールダウンの部屋の入口を隠せるようにするなど個別空間となるように工夫していく。 ・バギー等が出やすいように玄関での工夫を考えていく。 ・送迎車や遊具等の安全性への配慮をさらにしていく。 ・教室の窓、トイレの換気扇、児発のクールダウンの部屋、スロープ、中庭の安全柵、中庭の日よけなどの施設改善について検討していく。
3	他機関との連携を推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や幼・保育園、他事業所での表れが分からなく、支援のヒントが少ない。 ・他事業所のイベント等の情報が少なく、調整が難しい。 ・施設内での活動や交流が多く、違った環境下での活動やコミュニケーションを図る機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、当事業所が連携し、同じ支援を行うための情報共有の場、機会を設けていく。 ・学校での様子等を保護者を通して多く共有していく。 ・他事業所と横のつながりを構築し、交流を図る機会を作っていく。 ・児発管を中心に他機関との連携を強化していく。 ・相談員への連絡を密にして子どもの様子や問題についてチームで取り組む場を作っていく。